

1 調査の目的

全国一斉に実施する全国学力・学習状況調査を活用し、本町児童生徒の学力や学習状況を客観的に捉え、改善を図り、義務教育段階での確かな学力と望ましい生活習慣の定着に役立てることを目的としています。

2 調査の内容

- (1) 調査期日 令和7年4月17日（木） ※質問調査（小中）、理科（中）はC B Tにて別日
- (2) 対象学年 小学6年生 中学3年生
- (3) 教科に関する調査
 - ・小学校6年 国語、算数、理科
 - ・中学校3年 国語、数学、理科
- (4) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

3 本町における調査結果の公表について

義務教育9年間は、将来、社会に出てから必要な「確かな学力」を身に付ける大切な時期であり、学校・家庭・地域が共通の目的をもって各々の役割を認識し、協働して学力向上の取組を進めていくことが大切です。その為にも、本町児童生徒の学力及び学習状況の実態を知っておくことが必要なことから、参考資料として、本町の調査結果を公表しています。

4 調査結果の解釈について

- (1) 本調査問題によって計ることのできる学力は、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に限られます。
- (2) 本町は調査対象数が少ないことから、一問に対する正答・誤答、一人の結果が、学校の平均正答率を大きく変動させることとなります。また、問題の傾向や難易度も違うため、各年度の平均正答率は単純に比較できるものではありません。
- (3) 各学校では、調査結果を次の指導に生かすことが何よりも重要と考え、結果にもとづいた授業改善に取り組んでいます。

■京極町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:15人）（中学校数:1校、生徒数:25人）

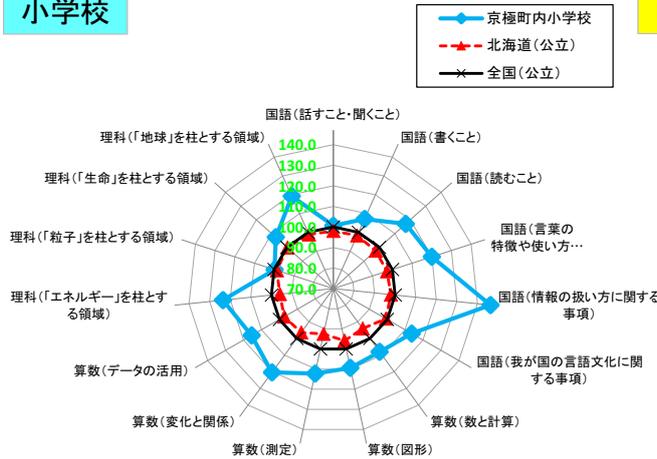
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

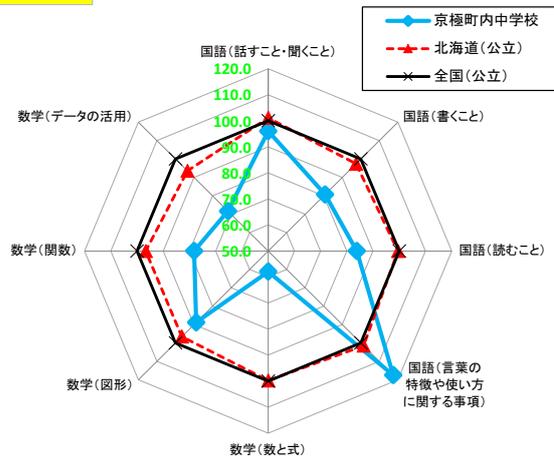
平均正答率	小学校	中学校
国語	76	49
算数・数学	65	35
理科	65	49.5

※中学校理科は平均IRTスコア

小学校



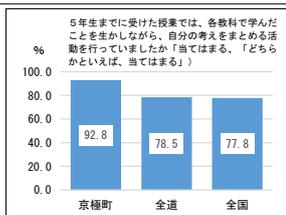
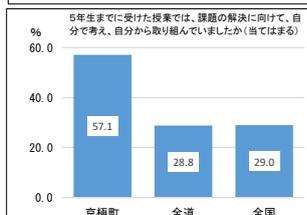
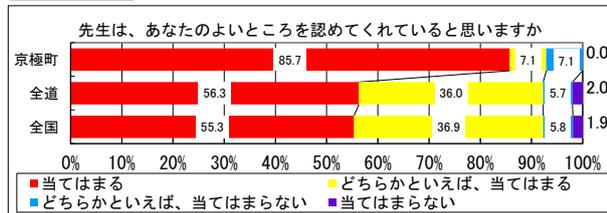
中学校



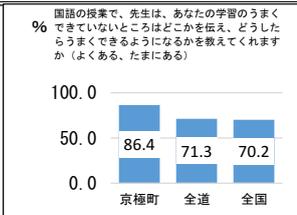
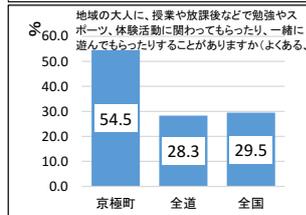
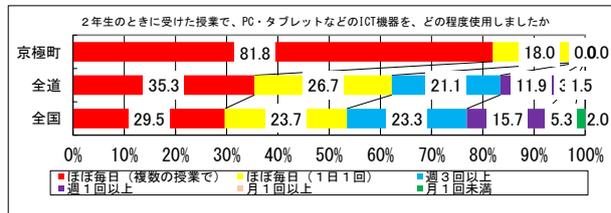
※中学校理科は、内容ごとの平均値が提供されていないため未記載

【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか?」にも、肯定的回答が全国比より10%以上高いなど、心理的安全性の高い集団であると考えられる。そのことは、授業時間における落ち着いた学習活動の展開に関連し、学習内容の定着につながっているのではないかと考える。

「京極STANDARD」に基づいた授業展開を意識することで、学びの自己調整力が高まり、「自立した学習者」としての力が身につく。学年段階に応じて、「まとめ」を自分の力で表現できるように意識した授業展開や、困ったときには他者参照を適宜行っていることにより、誰一人取り残さない多様な学びの機会が充実してきているのではないかと考えられる。

中学校

ロイロノートやクラスルームを日常的に使用し、各教科共通様式のふりかえりをクラウド上で行うなど、ICT機器の活用機会を積極的に作ることを学校全体で意識した成果が出ているものと思われる。

外部人材を活用した授業や、地域の社会教育活動の質や量の豊富さが、生徒に体感できる状況となっていると考えられる。

特に国語の授業では、伴走者として効果的に生徒に働きかけを行っていることがわかる。子ども一人一人に対して効果的な教育活動を展開するための授業観の転換を、教師が意識し始めていると考えられる。

【京極町の学力向上策】

- ◎ 「京極STANDARD」に基づき小中連携して取り組む課題解決型授業の充実による義務教育9年間の学びの連続性確保。学びを選択、自己調整できる指導計画や学習環境の充実。
- ◎ 加配教員・非常勤講師・特別支援教育支援員を配置し、児童生徒の教育的ニーズに配慮した学習活動の展開など、子どもが安心して学びことができる環境の確立。
- ◎ 1人1台端末を活用した授業の活性化と深化、デジタル学習基盤の効果的な活用による基礎学力の確実な定着。

令和7年度全国学力・学習状況調査の分析について

京極町教育委員会

1 調査分析の目的

全国学力・学習状況調査の目的に基づき、以下の視点で分析を行う。

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育活動の成果と課題を検証しその改善を図ること。
- (2) 児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てること。
- (3) (1)(2)を通じて、教育に関する継続的な検証サイクルを確立すること。
- (4) (1)～(3)を踏まえて、調査問題の傾向から、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の参考にする。

2 分析結果の取扱いの留意点

- (1) 調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることを踏まえた解釈に努める必要があること。

3 本町の分析のねらい

- (1) 1に基づき分析を行うこと。
- (2) 特に課題のあった問題をつかみ、授業改善の参考にする。
- (3) 問題の傾向から、求められている授業観を再確認すること。
- (4) 質問調査から、本町の「強み」を見つけたり、小中の共通課題を見つけて、小中で連携した改善に向けての参考資料としたりすること。

4 教科全体の状況

平均正答率で上回る場合「◎」 ほぼ同じくらい「○」 下回る場合「△」

(1) 小学校

教科	北海道平均	北海道との比較	全国平均	全国との比較
国語	65.0	◎	66.8	◎
算数	55.0	◎	58.0	◎
理科	56.0	◎	57.1	◎

(2) 中学校

教科	北海道平均	北海道との比較	全国平均	全国との比較
国語	54.0	△	54.3	△
数学	47.0	△	48.3	△
理科	50.0	△	48.3	○

※表の記号は

◎十分な成果が出ているもの

○もう少し工夫が必要なもの

△課題と考えられるもの

5 児童生徒の学力や学習状況について
教科の傾向

(1) 国語 ※「－」は問題の設定がない内容

①学習指導要領の内容

	小学校	中学校
言葉の特徴や使い方	◎	◎
情報の扱い方	◎	－
我が国の言語文化	◎	－
話すこと・聞くこと	◎	○
書くこと	◎	△
読むこと	◎	△

③問題形式

	小学校	中学校
選択式	◎	○
短答式	◎	○
記述式	◎	△

②評価の観点

	小学校	中学校
知識・技能	◎	◎
思考・判断・表現	◎	△

小中共通の課題は大きく存在していないことがわかる。ただし、当該学年の児童生徒に関するデータであるため、全ての学年に当てはまるとは言い切れない。3(3)について、研究所だよりで示した問題の傾向から、授業改善の参考にしていただきたい。

④成果と課題

ア) 成果のあった問題の概要

小学校	中学校
【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する(情報の扱い方)	変換した漢字として適切なものを選択する(かいしん)(言葉の使い方や特徴)
【ちらし】の下線部イ(あついで)を、漢字を使って書き直す(言葉の特徴や使い方)	ちらしの中の情報について、示す位置を変えた糸を説明したものとして適切なものを選択する(書くこと)
【話し合いの記録】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する	スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する(話すこと・聞くこと)

イ) 課題のあった問題の概要

小学校	中学校
【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部アのように発言した目的として適切なものを選択する(話すこと・聞くこと)	ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する(書くこと)
【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部イのように発言した理由として適切なものを選択する(話すこと・聞くこと)	物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する(読むこと)

(2) 算数・数学 ※「-」は問題の設定がない内容

①学習指導要領の内容

	小学校	中学校
数と計算（数と式）	◎	△
図形	◎	○
測定	◎	-
変化と関係（関数）	◎	△
データの活用	◎	△

②評価の観点

	小学校	中学校
知識・技能	◎	△
思考・判断・表現	◎	△

共通課題はほとんどないと考えられる。国語と同様に、研究所だよりで、算数・数学の出題傾向から授業改善のヒントを示しているので、参考にしていきたい。

③問題形式

	小学校	中学校
選択式	◎	△
短答式	◎	△
記述式	◎	△

④成果と課題

ア) 成果のあった問題の概要

小学校	中学校
10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容容量が、増量前の何倍かを選ぶ（変化と関係）	$\triangle ABC$ において、 $\angle A$ の大きさが 50° のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める
2022年の全国のブロッコリーの出荷量が2002年の全国のブロッコリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ（数と計算、データの活用）	
示された表から、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ（データの活用）	

イ) 課題のあった問題の概要

小学校	中学校
数直線上に示された数を分数で書く（数と計算）	ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の総体度数を求める（データの活用）
	果汁40%の飲み物a mLに含まれる果汁の量を、aを用いた式で表す（数と式）
	$3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する（数と式）

(3) 理科

①学習指導要領の内容

	小学校	中学校
エネルギー	◎	
粒子	○	
生命	◎	
地球	◎	

②評価の観点

	小学校	中学校
知識・技能	◎	
思考・判断・表現	◎	

③問題形式

	小学校	中学校
選択式	◎	
短答式	◎	
記述式	○	

中学校理科については、問題ごとの平均値のみ提供されているため、総括的に評価することが難しい。中学校理科の問題ごとの平均値において、小学校との比較を行ったが、小中学校の共通の課題は顕著にはなっていない。

研究所だよりに示したが、学習過程において児童生徒が考える場面を明確に設定することが必要で、そのための「課題設定」「まとめ」「ふりかえり」の扱いは大事にすると良い。

④成果と課題

ア) 成果のあった問題の概要

小学校	中学校
乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ(エネルギー、知識・技能)	水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する(粒子、思考・判断・表現)
水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けているものを選ぶ(地球、知識・技能)	「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな?」という疑問を解決するための課題を記述する(粒子、思考・判断・表現)
ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く(エネルギー、知識・技能)	生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する(生命、知識・技能)

イ) 課題のあった問題の概要

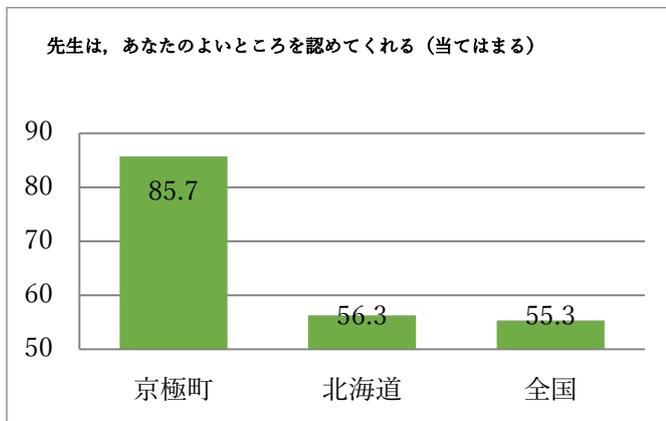
小学校	中学校
レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気付きを基に、見いだした問題について書く(生命、思考・判断・表現)	牧野富太郎の「サクユリ」のスケッチから、サクユリの【茎の横断面】、【根】として適切なものを判断し、選択する(生命、思考・判断・表現)
水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く(粒子、思考・判断・表現)	電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する(エネルギー、知識・技能)

6 質問調査について

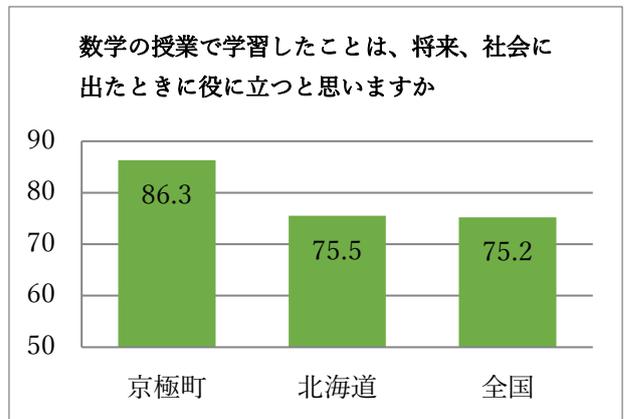
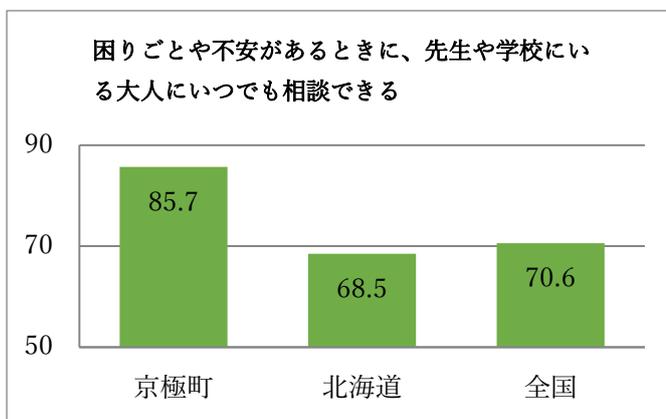
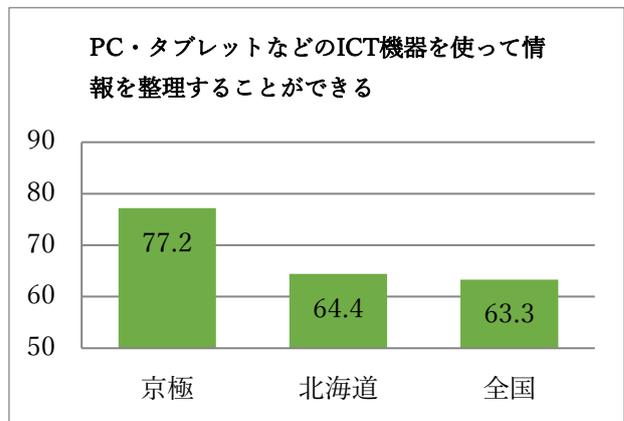
(1) 全国平均より特に高い数値を示したものの

	学 習 面	生 活 面
小	<ul style="list-style-type: none"> ■ICT 機器を活用することによって、自分のペースで学習を進めることができる(+11.5) ■ICT 機器を活用することについて、友達と協力しながら学習を進めることができる(+12.5) ■5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた(+28.1) ■5年生までに受けた授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた(+28.4) 	<ul style="list-style-type: none"> ■先生は、あなたのよいところをととも認めてくれていると思う(+30.4) ※思わないと回答0名 ■困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる (+24.0) ■先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う(+23.7)
中	<ul style="list-style-type: none"> ■2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT 機器を、1日に複数の授業で活用した(+52.3) ■ICT 機器を使って情報を整理することができる(+13.9) ■国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれる(+16.2) 	<ul style="list-style-type: none"> ■いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う(全員) ■地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある(+25.0) <p>ICT 機器の活用について、小中ともに高い数値が示された。</p>

(小)



(中)

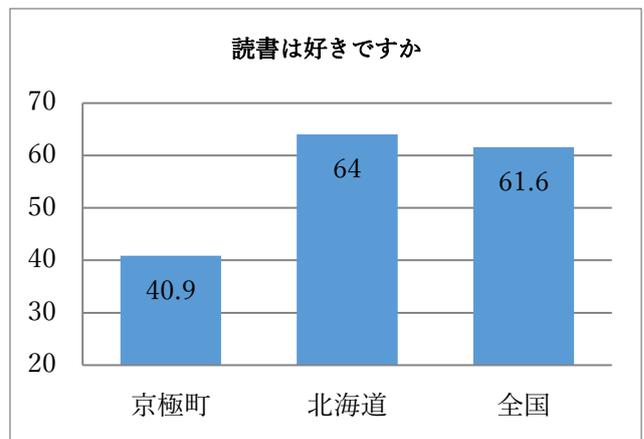
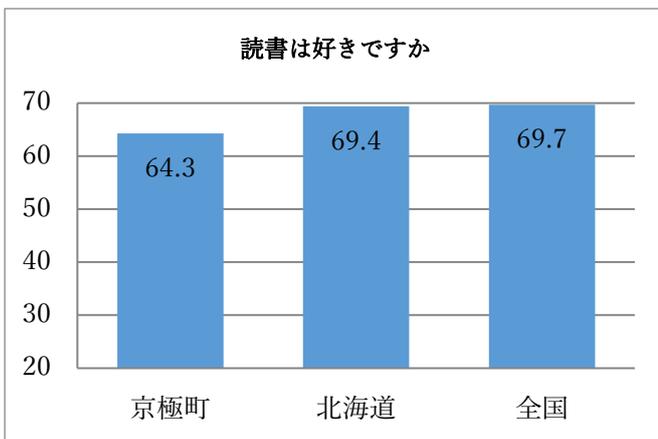
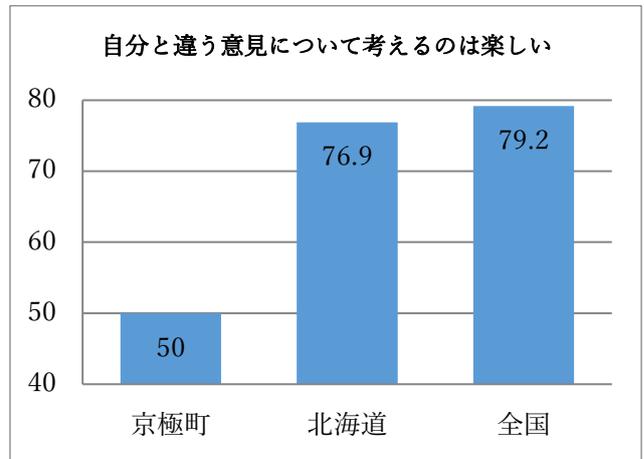
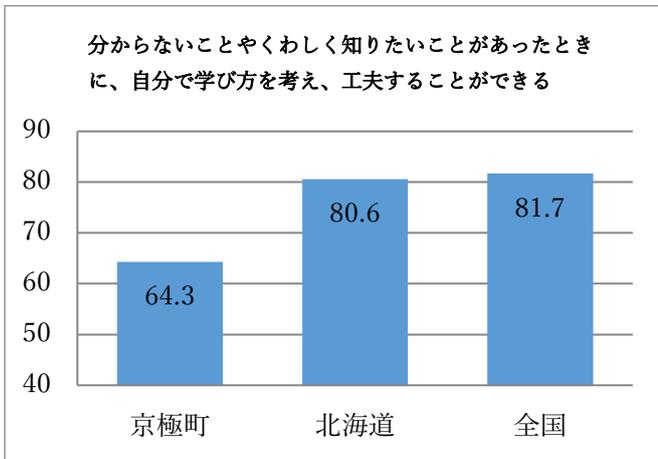


(2) 全国平均から比べ、課題と思われるもの

	学 習 面	生 活 面
小	<p>▲自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う (-13.9)</p> <p>▲分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学びを考え、工夫することはできている (-17.6)</p>	<p>▲自分にはよいところがあると思う(-10.4)</p> <p>▲学校に行くのは楽しいと思う(-8.0)</p>
中	<p>▲自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う (-29.2)</p> <p>▲分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学びを考え、工夫することはできている (-13.8)</p> <p>▲2年生のときにうけた授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた(-11.5)</p> <p>▲学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている (-9.8)</p>	<p>▲自分にはよいところがあると思う(-18.0)</p> <p>▲学校に行くのは楽しいと思う(-13.3)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>小学校の課題は、小中共通の課題となっていることがわかる。</p> <p>(共通課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働的な学びにおける対話の質 ・学びの自己調整 <p>(中学校課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをまとめる活動経験 ・次の学びにつなぐ、ふりかえりの質 </div>

(小)

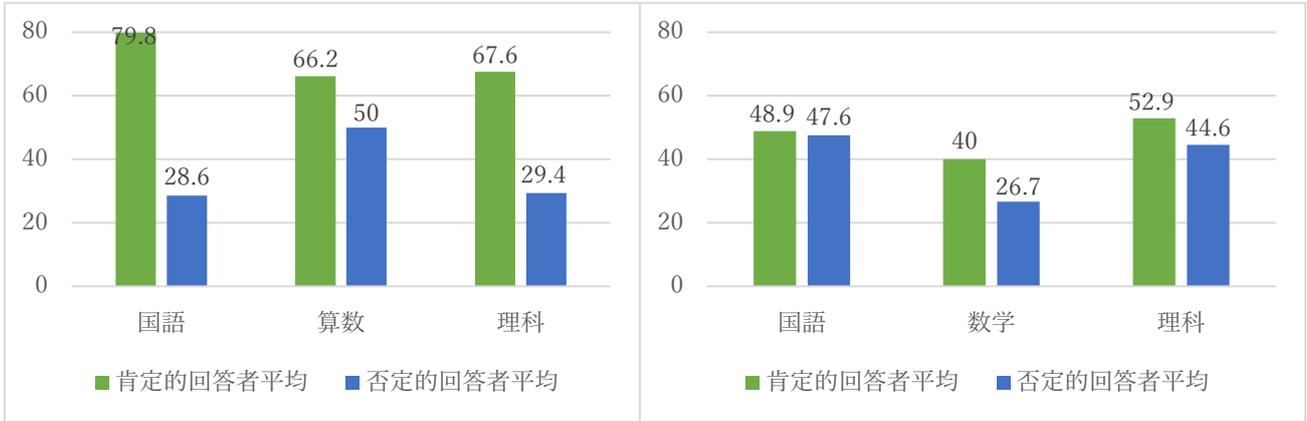
(中)



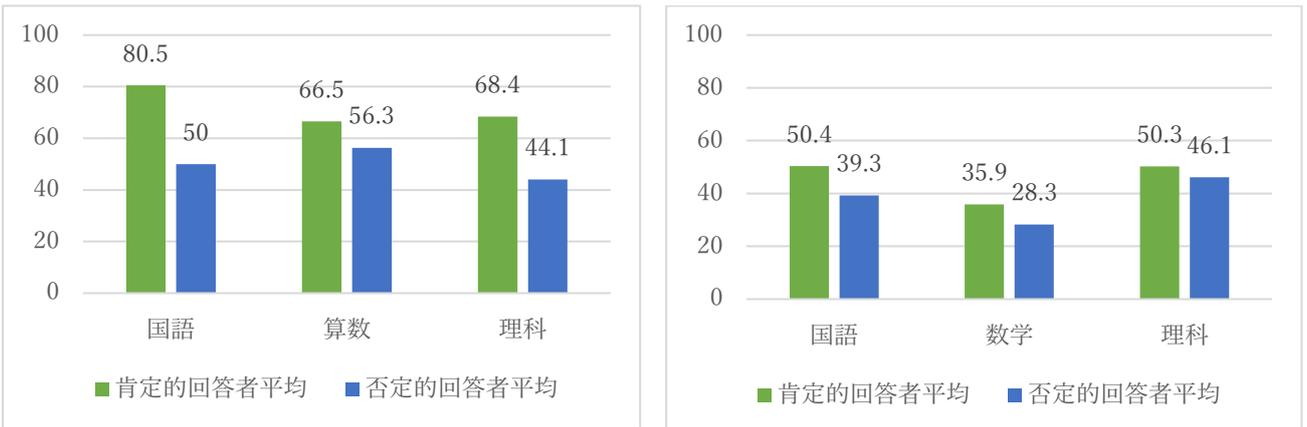
(3) クロス分析結果から生かせること

※肯定的な回答をした児童生徒と否定的な回答をした児童生徒の平均正答率を比較し、小・中学校とも3教科全てにおいて平均正答率が上回ったもの（グラフ左：小学校、右：中学校）

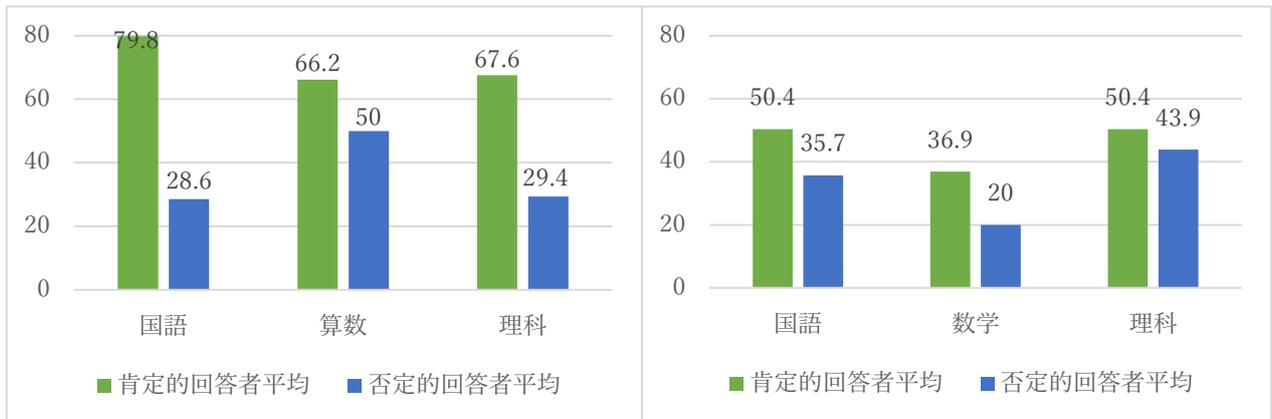
①前学年までに受けた授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか



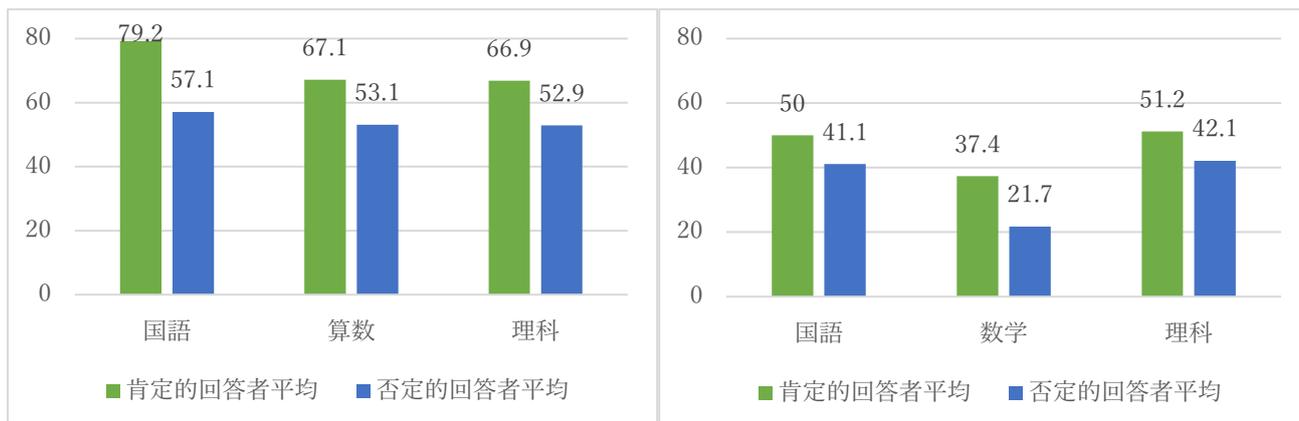
②前学年までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。



③あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか



④あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか？



(4) 質問調査から検討できる改善策等

- ICTの活用状況は、全般的に小・中学校ともに高い傾向にあり、継続していくことが望ましい。
- ICTの活用についてクロス分析結果から、ICTを使った学習に得意意識がある児童生徒は、学習内容の定着率が高いことがわかることから、苦手意識を持っている児童生徒へのICT活用支援や、特に小学校段階の6年間における系統的なICTスキルについて、整理していくことが急務と思われる。
- クロス分析①において、自分の考えをまとめる活動を行うことができると答えた児童生徒の方が学習内容の定着につながっていることがわかる。研究所だより6に、国語における思考力・判断力・表現力の重点「自分の思いや考え」の学年別系統表を示した。まずは、小学校低学年では「自分の考えをもつ」、中学年では「まとめる」、高学年では「広げる（≒対話・協働学習が必要）」、中1では「確かなものにする」、中2・3では「広げたり深めたりする（≒対話が重要）」ように、重点の系統を意識したまとめ活動を、各教科で取り組むことが必要と思う。
- クロス分析②において、「自分にあった教え方、教材、学習時間」とは、「個別最適な学び」と直結する設問であったと考える。そのためには、「学習者による自己選択の場面設定」が必須と言えるため、1単位時間及び単元のどの場面で、どんな自己選択ができるか、各教科において実践していくことが必要と思う。



研究所だより 4

担当 京極町教育研究所主任所員

～令和7年度 全国学力・学習状況調査（理科）の分析～

全国学力・学習状況調査は、見方・考え方を働かせて「1人で解く」と考えると、単に「知識・技能」が獲得されているだけでは十分な資質・能力を有して臨んでいるとは言えません。3号で記載したように「知識・技能」を活用して「思考・判断・表現」の力を高めながら、新たな「知識・技能」の獲得も目指す授業展開を行うことが「1人で解く」ための大切な準備です。そのことが、日常の授業経験を生かして「1人で解く」こととなりますから、全国学力・学習状況調査問題から、日常の授業改善のヒントを得ることが大切です。

とは言え、そんなことも十分承知でしょうから、改めてどんなことを大切にしていこうかがその最適解か？と言え、

「教科書の学習展開を十分意識しながら、その過程において児童生徒自らが考える場面に大切にしていこうこと」

と考えるとどうでしょうか。以下に示す問題からわかるように、「課題設定」「まとめ」「ふりかえり」の場面において考えさせることがとても大切です。そのための工夫が腕の見せ所です。「課題」と「まとめ」の間は？と言え、既に両校とも、どのクラスでも十分意識していますので、ここでは触れません。

4号では、理科について扱っています。全国学力・学習状況調査の分析については、全体的にできなかった問題の解き方を考えさせることにあるのではなく、授業改善の視点に立った分析が重要です。理科を授業していない先生にも、何らかのヒントをもたらすことができればよいと考えます。

「学習課題」「まとめ」「ふりかえり」については、どの教科でも共通して扱いますので、自分が指導している教科に置き換え、児童生徒が主体的に考え、学びの自己調整が十分に行われる工夫がなされているかというあたりを想像しながら理科の問題を見てみてください。



1 理科の問題作成の視点

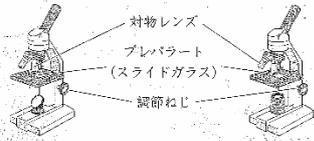
(1) 評価の観点と視点

理科は、2観点に基づき作成されますが、下の表のように2観点を5つの視点に分けて作成されます。

観点	知識・技能		思考・判断・表現		
視点	知識	技能	分析・解釈	構想	検討・改善

(2) 技能 (小) 3 (2)

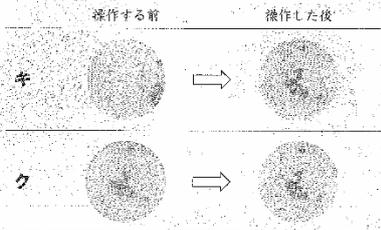
てるみさんは、ヘチマの花粉をけんび鏡で観察することにしました。



けんび鏡を操作すると、観察する物の見え方が変わらね。



(2) けんび鏡を操作したとき、キとクのように、操作する前と後で見え方が変化しました。キとクはどのような操作をしたのか、下の 1 から 4 の中からそれぞれ 1 つ選んで、その番号を書きましょう。



- 1 対物レンズをちがう倍率のものにした
- 2 プレパラートを動かした
- 3 明るさを調節した
- 4 調節ねじを回した

⇒実験器具の操作などの技能に関する知識

(3) 分析・解釈 (中) 1 (2)



課題を設定する



【Aさんの疑問】
理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？

【Aさんの疑問】を調べたり、実験を行ったりして解決するためには、どのような課題をすればよいですか？



課題は、
() にしようと思います。



(2) 【Aさんの疑問】を解決するために、() に適切な課題を書きなさい。

課題

⇒理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかを解決するための課題を記述

(4) 構想 (小) 3 (4)

たかひろさんたちは、レタスの種子を発芽させようとしています。



レタスの種子を発芽させようと思って、水、空気、温度の条件を下のようにしたのに、1つも発芽しなかったよ。

たかひろさんが行った実験



- 【条件】
- ・水あり
 - ・空気あり (種子が空気にふれている)
 - ・温度 (室温)
 - ・日光なし (箱をかぶせている)
 - ・肥料なし

水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、上の【条件】の中から 1 つ選んで調べてみたい。



(4) てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。てるみさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を 1 つ書きましょう。

⇒学びの自己調整に直結する問題。結果を基にした新たな課題や根拠のある計画。

中2 (1)

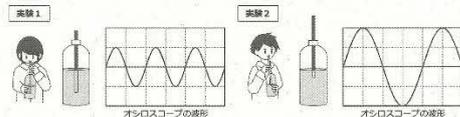
2

理科の授業で、ストローと水の入っているペットボトルで実験をつくり、音について科学的に研究しています。

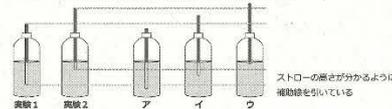
(1) (2) の各問いに答えなさい。



【実験】「ストロー内の空気が入る長さ (黒い部分)」を変えて実験を行ったときのオシロスコープの波形を観察しました。



【考察】
音の振動の様子をオシロスコープで調べてみよう。
【考察】
ストローの両端を吹き込むと音が出来るのは、ストローの中の空気が振動したからだよ。
【考察】
音の振動の様子をオシロスコープで調べてみよう。
【考察】
【ストロー内の空気が入る長さ (黒い部分)】が長くなるにつれて、音はだんだん低くなる。
【考察】
【考察】をより確かなものにするためには、あと 1 つ実験を行なうよ。次は、ア、イ、ウのどれで実験を行えばよいのかな。



(2) 実験について、【考察】をより確かなものにするために 1 つ実験を行なうよ。ア、イ、ウのうち、あと 1 つの実験を行なうよ。ア、イ、ウのどれで実験を行なうよ。オシロスコープの波形から音が低くなるのは、振動数という言葉を調べて書きなさい。

音の【実験】が低くなるよ。ア、イ、ウのどれで実験を行なうよ。音が低くなるよ。音が低くなるよ。

(5) 検討・改善

(小) 1 (2)

あかりさんたちは実験を行い、得られた【結果】を下のよう整理しました。

【結果】 **赤玉土の水がしみこむ時間**

	コップA (大きいつぶ)	コップB (小さいつぶ)
1回目	3秒	11秒
2回目	4秒	10秒
3回目	4秒	11秒

あかりさんは、【問題に対するまとめ】を考えています。



【問題に対するまとめ】は、「水のしみこみ方は、赤玉土のつぶの大きさによって、ちがいがある」といえるね。

(2) あかりさんが下線部のようにまとめたわけを、上の【結果】を使って書きましよう。

(小) 4 (1)

【問題】を解決するために、下のような【方法】で実験をしました。

【方法】

- 500 mL のビーカーに 300 mL のお湯を入れる。
- ①に味噌を少量入れ、よく混ぜてからしばらく置いて冷ます。
- 実験用ガスコンロでビーカーの底の中心を温め、味噌の動きを見る。
- 味噌の動きを確かめられたら、火を消す。

【結果】

温める前のようす

味噌が底にしずんでいた

温めたときのようす

味噌がビーカーの底の中心から上に動いた

ゆういちさんは、【結果】をもとに【問題に対するまとめ】を考えました。



【問題に対するまとめ】
ビーカーの底の中心を温めたとき、水の温められた部分が上に移動して、全体が温まる。

ゆういちさんがまとめてくれて気づいたのだけど、この実験の【結果】だけでは、そのようなまとめはできないと思うな。この実験では、水の(ア)について調べていないのだから。



(1) 上のふきだしの(ア)にあてはまることばを書きましよう。

⇒「まとめ」や「ふりかえり」に自分の考えを持たせる工夫があります。

(中) 1 (6)

探究の振り返り

水道水、精製水について探究したことを発表しています。

水道水について

河川の水などをろ過機で濾過すると、いろいろな生物がいるので、殺菌に殺菌のための工夫をしている。河川の水などを浄水施設でろ過し、塩素を注入したものを水道水として利用している。

精製水について

理科の実験で使用する精製水は、水道水を蒸留したり、ろ過したりしてつくられ、販売されている。精製水とミネラルウォーターの違いは何かを現在調べている。

探究を通じて、さらに疑問に感じたことに着目して振り返ります。

Bさん

探究を通じて、はじめの考えから考えが変化したことに着目して振り返ります。

Cさん

探究を通じて、身近な生活とのつながりを感じたことに着目して振り返ります。

Dさん

(6) 上の発表を聞いて、水道水や精製水に対し、Bさん、Cさん、Dさんを参考に、あかりの振り返りを書きましよう。

振り返り

(中) 9 (1)

9

理科の授業で学習した空気について、科学的に探究しました。

(1)、(2)の各問いに答えなさい。



動画を観て、気づいた疑問を予想しましよう。予想を記述したら先生に送信しましよう。タブレット上に、みんなの【予想】(図)を共有しましよう。



動画



図【予想】を共有した画面

予想した内容をひとり、振り返っています。



予想を経て、自分の考えがどのように変化したが、Aさんに【振り返り】を発表してまいましよう。



Aさんの【振り返り】
わたしが思っていたようなものが上がったので、最初の状態が違って気づいたかと思いましたが、状態変化によってその特徴と割合とで圧力が変わってきたかと分かりました。

(1) Aさんの【振り返り】は、Aさんの【予想】から学習した内容が反映されたものになっています。Aさんの【予想】として最も適切なものを1つ選びなさい。

Aさんの【予想】

- 煙のようなものが上がる化学変化が起こったのではない。
- 皿の中の水蒸気が水に昇って、体積の膨張が起きたと予想する。
- 温めると皿の中の空気の体積が大きくなるように、冷えると空気の体積が小さくなると思えた。
- 水を水につけたときに、水に押されたかぶだるう。

研究所だより 5

担当 京極町教育研究所主任所員

中学校へ行った帰り際に、A先生に呼び止められ、小学校のB先生の授業を見たときの感想を報告してくれました。次は、B先生がA先生の授業を見に来るそうです。手作り感のある小中連携の姿がありますし、若手教員が切磋琢磨している姿は頼もしいものです。学んだこと、感じたことを言語化（書いても話しても打ち込んでも有り）すると確かな定着につながります。児童生徒が行っている「まとめ」「ふりかえり」などのアウトプットも同じことです。

「教師の学びの姿も、子供たちの学びの相似形である」（独立行政法人教職員支援機構）

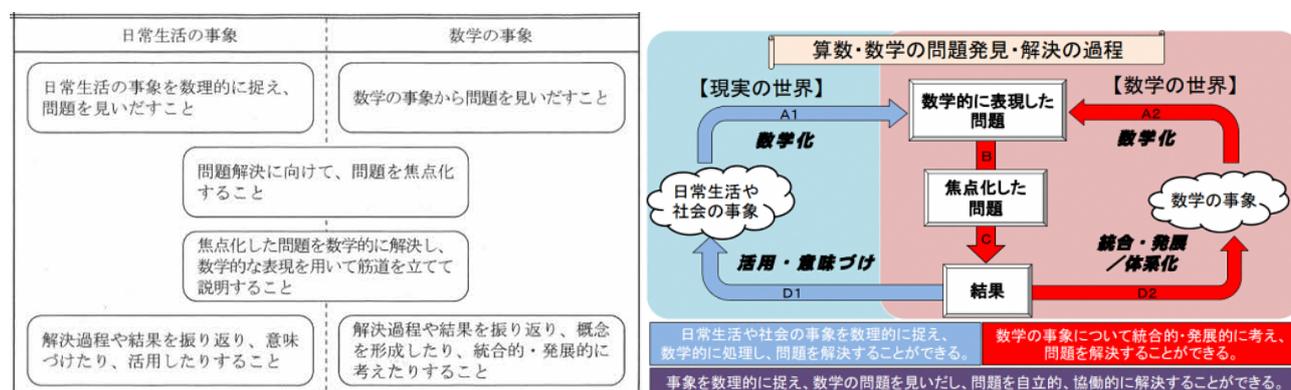
～令和7年度 全国学力・学習状況調査（算数・数学）の分析～

解説資料（国立教育政策研究所教育課程研究センター）には、調査問題作成の意図が次のように記載されています。

小	学習指導要領で求められている資質・能力を育成していくためには、学習過程の果たす役割が極めて重要
中	中学校数学科の指導のねらいからみて、今後の学習において活用される基礎的・基本的な知識及び技能や、その知識及び技能が、生徒が問題解決をしていく過程でどのように用いられているかについて明確にして出題することとした

どちらも、学習過程を重視しており、調査問題を通して、求められている学習過程を示していることとなります。そのため、授業改善のヒントを得るための分析とすることが必要です。

1 学習過程

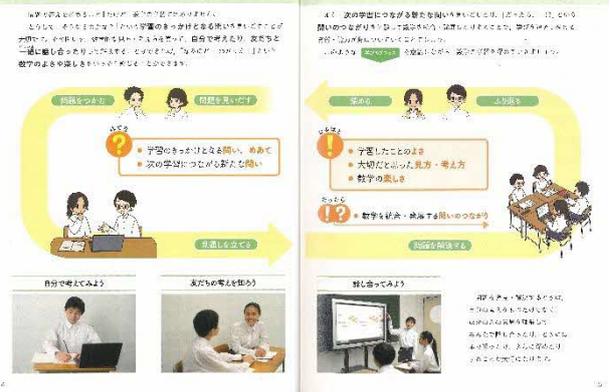


左の図が、解説資料に示された調査問題の枠組みです。右の図は、文部科学省が示す算数・数学の学習過程のイメージです。当然ながら、左右は同じことを表しています。これらを、各教科書会社では、児童生徒向けに教科書冒頭に次のように示してくれています。

みんなで算数をはじめよう!



みんなで数学をはじめよう!



写真左は小学校教科書（教育出版）、右は中学校教科書（東京書籍）です。1学期最初の授業では、このあたりを児童生徒と共有しているのではないのでしょうか。望ましい学習過程の展開について、自然発生的に発生することを待つことなく、日常的に共有していきましょう。

2 問題

(1) 小学校

① 「方法」を記述する問題（問題の一部を掲載）

(4) わかなさんたちは、図3のような五角形アイウエオの面積の求め方を考えています。

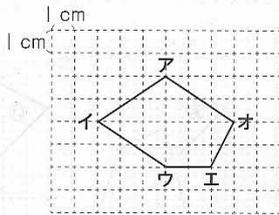


図3

わかなさんたちは、三角形や四角形の面積の求め方が使えるように、図3の五角形アイウエオを、2つの図形に分けようとしています。



わたしは、直線イオをひいて2つの図形に分けようと思います。



私は、直線ウオをひいて2つの図形に分けようと思います。

わかなさんとゆうたさんのどちらの分け方でも、五角形アイウエオの面積を求めることができます。

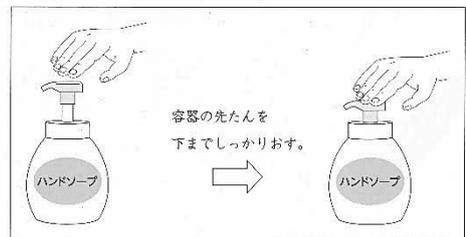
4

保健委員のおさひさんたちは、手を洗うときに使っているハンドソープについて話し合っています。



ハンドソープを空になるまで使ったら、何プッシュすることができるのかを知りたいです。

1プッシュとは、容器の先たんを下までしっかり1回おすことです。
1プッシュしたとき、ハンドソープの液体が毎回同じ量ずつ出ることになります。



解説資料によると、「方法」を記述する問題では、問題を解決するための自分の考え方や解決方法の記述を求めると、他者の考え方や解決方法を解釈して、その記述を求めると考えられる。また、ある場面の解決方法を基に別の場面の解決方法を考え、その記述を求めると考えられる。⇒学習過程（教科書図）では「だったら」のところまで。

②「事実」を記述する問題

(2) ひろとさんたちは、分数のたし算についても、小数で考えたようにぶり返っています。

まず、みおりさんは、 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ についてまとめています。



$\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 2 個分、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 1 個分です。
 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ の計算は、 $\frac{1}{5}$ をもとにすると、 $2 + 1$ を使って考えることができます。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ は、もとにする数を $\frac{1}{5}$ にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。



$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の 3 個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の 2 個分です。
 もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

「事実を」記述する問題では、計算の性質、図形の性質、二つの数量の関係などの記述を求めること、表やグラフなどから見いだすことができる特徴や傾向の記述を求めることが考えられる。また、「事実」を記述する際には、説明する対象を明らかにして記述することが考えられる。

⇒学習過程では、「話し合っ深める」前後のところになります。また、まとめに直結する内容ですので、授業時に日常的にまとめを自ら書くようにしていくことは、このような問題に対応できるか見取るポイントとなり得ます。

(2) 中学校

調査問題の枠組み

数学科の内容(領域)	数と式	図形	関数	データの活用
主たる評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現	
文脈や状況	日常生活や社会の事象についての考察		数学の事象についての考察	
数学の問題発見・解決における局面		数学的なプロセス		
I	(1) 事象を数・量・図形等に着目して観察すること (2) 事象の特徴を的確に捉えること (3) 理想化したり単純化したりすること (4) 情報を分類したり整理したりすること			
II	(1) 筋道を立てて考えること (2) 解決の方針を立てること (3) 方針に基づいて解決すること (4) 事象に即して解釈したことを数学的に表現すること (5) 数・式、図、表、グラフなどを活用して、数学的に処理すること (6) 数学的に表現したことを事象に即して解釈すること (7) 解決の結果を数学的に表現すること			
III	(1) 数学的な結果を事象に即して解釈すること (2) 必要な情報を選択し判断すること (3) 解決の過程や結果を批判的に考察すること (4) 解決の過程や結果を振り返り評価・改善すること (5) 統合的・発展的に考察すること (6) 事象を多面的に見ること			

授業時間におけるポイントとも言えるものが網羅されています。

特に、Ⅲ「問題解決の過程や結果を振り返って考察すること」に記載されている、

- ・「事象に即して解釈する」
- ・「過程や結果を批判的に考察する」

このあたりは、かみ砕いて説明しながら生徒と共有したり、授業時間においてそのようにできている場面で価値づけをして、そのことが一般化できるようにしたりすることが有効と思います。

中学校では、大問題が9つあり、その内訳は大きく次のようになっています。

①～⑤	数学の学習過程において問題発見・解決する際の、ある局面に限定している。 ⇒知識・技能に特化した問題が出題されました。※ただし、計算問題のように式が書かれていて答えを出すような単純な問題ではない。
⑥～⑨	数学の問題発見・解決における複数の局面を想定している。⇒知識・技能を活用した、思考・判断・表現が問われる問題。「見方・考え方」が働いている場面そのもの

①①～⑤の問題

- ① 下の1から9までの数の中から素数をすべて選び、選んだ数のマーク欄を黒く塗りつぶしなさい。

1 2 3 4 5 6 7 8 9

- ② オレンジの果汁が40%含まれている飲み物があります。この飲み物 a mL にオレンジの果汁は何 mL 入っていますか。 a を用いた式で表しなさい。

②⑥～⑨の問題

- ⑥ 結菜さんと太一さんは、3、6や12、15のような連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べるために、次の計算をしました。

$$\begin{array}{ll} 3、6 \text{ のとき} & 3 + 6 = 9 \\ 12、15 \text{ のとき} & 12 + 15 = 27 \\ 30、33 \text{ のとき} & 30 + 33 = 63 \end{array}$$

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

- (1) 結菜さんは、これらの計算の結果から、「連続する2つの3の倍数の和は、いつでも9の倍数になる」と予想しました。

しかし、この予想は成り立ちません。この予想が成り立たないことを下のように説明します。下の①から③までに当てはまる整数をそれぞれ書き、説明1を完成しなさい。

説明1

連続する2つの3の倍数が、例えば、①、②のとき、① + ② を計算すると、和は③となり、9の倍数ではない。

したがって、「連続する2つの3の倍数の和は、いつでも9の倍数になる」という予想は成り立たない。

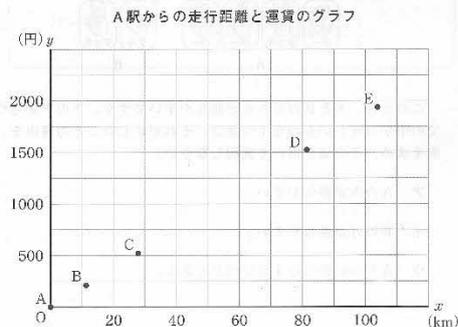
- ⑧ A駅の近くに住んでいる歩夢さんは、C駅とD駅の間にあるスタジアムによく行きます。

歩夢さんは、スタジアムの近くに新しい駅をつくる計画があることを知り、A駅から新しい駅までの運賃がいくらになるのか気になりました。そこで、A駅からの走行距離と運賃をインターネットで調べ、次のような表にまとめました。

調べた結果

	A駅	B駅	C駅	D駅	E駅
A駅からの走行距離(km)	0.0	11.4	27.7	81.9	104.6
A駅からの運賃(円)	0	210	510	1520	1930

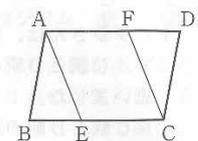
歩夢さんは、上の調べた結果を見て、A駅からの走行距離と運賃にはどのような関係があるかわかりにくく感じました。そこで、調べた結果をもとに、A駅からの走行距離を x km、A駅からの運賃を y 円とし、コンピュータを使って下のようなグラフに表しました。このグラフの点Aから点Eまでの各点の x 座標と y 座標は、それぞれA駅からE駅までの各駅のA駅からの走行距離と運賃を表しています。



- ⑨ 右の図1のように、平行四辺形ABCDの辺BC、DA上に、BE = DFとなる点E、Fをそれぞれとります。

このとき、四角形AECFは平行四辺形になります。このことは、次のように証明できます。

図1



証明1

平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、

$$AD \parallel BC$$

よって、 $AF \parallel EC$ ……①

平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、

$$AD = BC \quad \dots\dots ②$$

仮定より、

$$DF = BE \quad \dots\dots ③$$

②、③より、

$$AD - DF = BC - BE \quad \dots\dots ④$$

④より、

$$AF = EC \quad \dots\dots ⑤$$

①、⑤より、

1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、四角形AECFは平行四辺形である。

研究所だより 6

担当 京極町教育研究所主任所員

1学期の終わりが近づく中、外部の専門家による指導・助言も受けながら、授業をはじめとするすべての教育活動において工夫と改善を重ねてこられた先生方に、心からの労いの言葉をお送りしたいと思います。

特に今年度は、授業を見せていただく機会を多く設けており、指導・助言の視点を大切にしながらも、先生方が積み重ねてこられた実践の変化や工夫の跡を目の当たりにしています。そのため、単なる一場面での評価では捉えきれない奥行きを強く感じています。

～令和7年度 全国学力・学習状況調査（国語）の分析～

既に発行した算数、数学、理科の分析と同様に、日常の授業改善につなげる視点で分析をしてみます。

1 学年の目標（ ）は中学校内容 ※学習指導要領解説から

(1) 知識及び技能

○日常生活（社会生活）に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。

※全学年共通。小学校から中学校への発展は日常生活⇒社会生活

(2) 思考力、判断力、表現力等（大きな違いの部分抜粋）※言語活動の中心

○考える力や感じたり想像したりする力を養う

○人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつ（広げたり深めたりする）こと ⇒対話的な学び

思考力・判断力・表現力の重点系統表

	考える力	感じたり想像したりする力	自分の思いや考え
小1～2	順序立てて考える力	具体的記載なし	もつこと
小3～4	筋道立てて考える力		まとめること
小5～6			広げること
中1		豊かに感じたり想像したりする力	確かなものにする
中2	論理的に考える力	共感したり想像したりする力	広げたり深めたりすること
中3		深く共感したり豊かに想像したりする力	

(3) 学びに向かう力、人間性等

○言葉がもつよさを感じる（価値に気付くこと）、読書をする、国語（我が国の言語文化）を大切にして思いや考えを伝え合おうとする

学びに向かう力、人間性等の重点系統表

	言葉がもつよさ（価値）	読書	国語（我が国の言語文化）
小1～2	感じる	楽しんで	具体的記載なし
小3～4	気付く	幅広く	
小5～6	認識する	進んで	
中1	気付く	生活に役立てる	我が国の言語文化を大切にして
中2	認識する	自己を向上させる	
中3		我が国の言語文化に関わり	

(2)(3)とも、系統表にある重点を意識しながら、児童生徒の実態に乖離した高すぎる目標を設定しないように注意が必要。また、指導の際に重点について、単元の学習課題設定時に児童生徒と共有することも有効。

2 出題問題と関連する教科書教材 出題の趣旨は国立教育政策研究所「解説資料」から出題された問題と関連の深い教材を記載しました。各教材の指導時には、全国学力・学習状況調査問題との関連を意識した指導を行うことで、授業改善のヒントとして活用していただきたいと考えています。

(1) 小学校¹ (思考・判断・表現) A 話すこと・聞くことイ

【話し合いの様子】

小森さん 質問することを整理するために、話し合ったことを記録するね。私は、運転士さんがどんなことを大切にしているかを知りたいな。きつと、乗客の安全を大切にしていると思うな。

清川さん ぼくがよく乗るバスはいつも時間どおりに来るよ。時間を守ることも大切にしていてると思うな。

町田さん 安全を考えながら時間を守ることは、大変そうだよな。

小森さん 確かに、大変そうだね。「仕事で大切にしていること」を聞くことができるかもしれないよ。

清川さん バスの運転士は、楽しそうだなと思ってたけど、大変なこともあるんだね。大変なことがあっても仕事を続けている理由も聞きたいな。

町田さん きつと仕事にやりがいがあるからだだよ。

清川さん ぼくもそう思うな。大切にしていることとやりがいについては、働くことについて考えるためにもぜひ聞きたいね。

小森さん うん、そうしよう。これまでの話し合いの記録をこんなふうにまとめたいよ。この進め方がいいかな。

【話し合いの記録】

働くこと (バスの運転士)

```

    graph TD
      A[大切にしていること] --- B[やりがい]
      A --- C[安全を守る]
      A --- D[時間を守る]
      C --- E[大変なこと]
      D --- E
      E --- F[大変なのに続ける理由]
      
```

予想

- ①趣旨
- 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討し、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら聞き、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。
- ②関連の深い言語活動を扱う教材
- 1年: みつけて はなそう、はなしを つなごう
- 2年: ひろい公園／ひろがることば つながるひろがる
「クラスお楽しみ会」をひらこう
- 3年: じこしょうかいビンゴゲーム／「りす公園」はどこにある？／ちいきの行事
- 4年: 「便利」をさがそう
- 5年: 見つけたよ！／「対話」というやりとり／ひみつを調べて発表しよう
- 6年: 聞かせて！「とっておき」の話

(2) 小学校2 (思考・判断・表現) B 書くことア

【ちらし】

手ぬぐい

手ぬぐいには、いろいろなよさがあります。そのよさは、どのようなものでしょう。

よさ1 もよう

さまざまなもようがあり、すきなもようを選ぶことができます。おくり物としてもぴったりです。

季節を感じるもよう

手ぬぐいには、植物や風景をもとにしたもようがあります。季節に合わせて手ぬぐいを選ぶことができます。

しゅみやすきなものに合わせたもよう

スポーツや音楽などに関係するもようの手ぬぐいもあります。相手のアこのみに合わせて、もようを選び、おくることができます。

よさ2 使い方

手などをふくだけではなく、身に着けたり、物を包んだりすることもできます。

身に着ける使い方

あつい日に、水でぬらして首にまくと、すずしく感じます。また、外で作業をするときに頭にかぶると、あせをきゅうしゅうし、両手が空くので仕事がしやすくなります。

物を包む使い方

手ぬぐいは、いろいろな物を包むことができます。

このように、手ぬぐいには、いろいろなよさがあります。みなさんもぜひ使ってみてください。

2 山田さんの学級では、伝統工芸品について、手ぬぐいのよさについて、せんせんに答えます。あとの問いに答えます。

①趣旨

目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、図表を用いるなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうか

②関連の深い言語活動を扱う教材

- 1年:せんせい、あのね/よくみて かこう/しらせたい ことを かこう/えにつきを かこう/たのしかった ことを かこう/しらせたいな いきもの ひみつ/「のりものカード」でしらせよう/おもしろい出のアルバム
- 2年:かんさつ発見カード/「生きものクイズ」でしらせよう/町の「すてき」をつたえます/おもしろいもの、見つけたよ/おもしろいおもしろい書を書こう/こんなことができるようになったよ
- 3年:「発見ノート」/クラスの「生き物ブック」/取材したことをほうこく文に/強く心にのこっていることを
- 4年:リーフレットでほうこく/作ろう学級新聞/クラスの「不思議ずかん」を作ろう/自分の成長をふり返って
- 5年:情報ノート/案内やしょうかいのポスター/世界遺産 白神山地からの提言/ひろがる言葉 これまで これから
- 6年:考えを図や表に/みんなで作ろうパンフレット/十二歳の主張

(3) 小学校3 (思考・判断・表現) C 読むことア

※1 「規範」……………判断したり行動したりするときの手本。
 ※2 「短絡」……………よく考えもせず、ものごとを簡単に結びつけてしまうこと。
 ※3 「文化庁」……………文化や芸術を広める仕事や、文化財を守る仕事などをする、国の機関。

著作権保護のため非掲載

3

木村さんの学級では、言葉の変化について学ぶために、みんなで「資料1」を読みました。そして、「資料1」を読んで一人一人が疑問や興味をもったことについて調べ、分かったことをもとに考えをまとめることにしました。「資料1」をよく読んであとの問いに答えます。

①趣旨

文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうか

②関連の深い言語活動を扱う教材

- 1年:すずめの ぐらし/だれが、たべたのでしょうか/はたらく じどう車/みぶりで つたえる
- 2年:すみれと あり/さけが大きくなるまで/この間に何があった?/ジャンプロケットを作ろう
- 3年:うめぼしのはたらき/めだか/ぐらしと絵文字/川をつなぐちえ
- 4年:ぞうの重さを量る/花を見つける手がかり/分類をもとに本をみつけよう/ウミガメの命をつなぐ/ぐらしを便利にするために
- 5年:新聞を読もう/ことなる見方/言葉と事実/世界遺産 白神山地からの提言/まんがの方法
- 6年:アイスは暑いほどおいしい? グラフの読み取り/雪は新しい エネルギー/ぼくの世界、君の世界

(4) 中学校¹ (思考・判断・表現) B 書くことイ

1 第一中学校では、毎年、美術の時間につくった作品を展示する美術展を行っています。今年は、昨年の美術展に会場した小学生の感想をもとに、内容を工夫して開催します。実行委員の中井さんは、地域の小学校6年生に向けて、来場を促すためのちらしを作成することにしました。次は、中井さんが参考にした【第一中学校のウェブページ上のお知らせ】と、文書作成ソフトを用いて作成している【ちらし】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【第一中学校のウェブページ上のお知らせ】

第一中学校

ホーム 学校紹介 行事予定 学校生活

行事のご案内

更新日 令和7年10月3日

美術展の開催のお知らせ

秋の恒例となった「第一中学校 美術展」を開催いたします。各学年の生徒たちは、美術展に向けて作品づくりに励んでおります。ご多忙とは存じますが、生徒たちの力作をご覧いただければ幸いです。ご来校をお待ちしております。

- ◆開催日時
令和7年11月15日(土) 10時～16時
- ◆開催場所
第一中学校 体育館



①趣旨

案内文を書く場面において(文脈に即して漢字を正しく使うこと/目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること/書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えること/自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと)ができるかどうか

②関連の深い言語活動を扱う教材

- 1年: 情報を整理して説明しよう/項目を立てて書こう/今に生きる言葉/構成や描写を工夫して書こう
- 2年: 適切な根拠を選んで書こう/仁和寺にある法師
- 3年: 論理の展開を意識して書こう/つながる古典/三年間の歩みを振り返ろう

(5) 中学校² (思考・判断・表現) A 話すこと・聞くことア

2 村田さんは、国語の時間に、学校の活動を地域に広げるアイデアについてスピーチをする学習に取り組んでいます。村田さんは、青木さんとあなたにスピーチのリハーサルを見てもらい、助言を求めています。次の【村田さんのスピーチ】と、(スライド①)から(スライド⑤)までを読んで、あとの問いに答えなさい。

【村田さんのスピーチ】

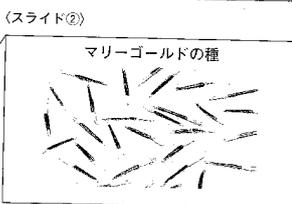
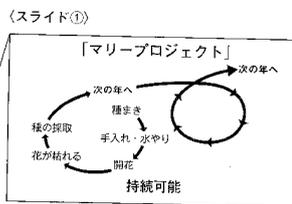
私は、「マリープロジェクト」をもとにしたアイデアを考えました。「マリープロジェクト」は、皆さんも知っているとおり、環境委員会が参加者を募って行っている、マリーゴールドを育てる活動です。参加したことがない人も、登下校のとき、きれいに咲いたマリーゴールドの花に、心が和んだこともあるのではないのでしょうか。マリーゴールドは、苗から育てることが多いのですが、この活動では、採取した種から育てています。

ここで、(スライド①)を提示

スライドに示したように、次の年、また次の年へとつながる、持続的な活動であることが、この活動の大きな特徴です。咲いた花を楽しむだけでなく、手入れをしながら成長を見守ることに魅力を感じ、私は、1年生のときからこの活動に参加しています。

ここで、(スライド②)を提示

これは、実際に採取したマリーゴールドの種です。次のシーズンに学校で育てる分を確保したあと、家でも育てたい参加者は種をもらって帰ります。私も、種をもらって、家族と一緒に育てています。ただ、



①趣旨

スピーチで考えを提案する場面において(資料や機器を用いた話し方の工夫を捉えること/相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること/自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫すること/資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること)ができるかどうか

②関連の深い言語活動を扱う教材

- 1年: 情報を聞き取り、要点を伝える
- 2年: 意見を聞き、整理して検討する
- 3年: 意見を聞き、適切さを判断する

(6) 中学校³ (思考・判断・表現) C 読むことイ

著作権保護のため非掲載

二人の兄弟

鳥崎藤村

③ 次の文章は、鳥崎藤村が書いた「二人の兄弟」という物語です。この物語は、「榎木の史」、「釣の話」で構成されています。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

①趣旨

文学的な文章を読む場面において(表現の効果について、根拠を明確にして考えること/文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えること/事象や行為を表す語句について理解すること/文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること)ができるかどうか

②関連の深い言語活動を扱う教材

1年: はじまりの風/大人になれなかった弟たちに……
 2年: 情報×SDGs/ヒューマノイド/扇的の/走れメロス
 3年: 握手/言葉の釣り糸を垂らす/情報×SDGs/複数の意見を読んで、考えよう/夏草/それでも、言葉を

(7) 中学校⁴ (思考・判断・表現) B 書くことイ

先日、
 さて、昨年は、私たちの職場体験活動に協力してくれありがとうございました。大野さんをはじめ、お店の皆さんに親切に指導してもらい、多くの学びを得ることができました。この体験活動をするまで、私は、生花店で働くことについて、華やかなイメージしかもっていませんでしたが、皆さんに教わりながら、一つ一つ仕入れた商品を下処理したり、葉や花びらが落ちていないように気を付けたり、花を長持ちさせる方法や花言葉を勉強したりすることを通して、華やかさの裏には、それを支える作業や専門的な知識があることを知りました。

【手紙の下書きの一部】

④ 三上さんは、職場体験活動でお世話になった生花店の店長の大野さんへ、お礼の手紙を書いています。次は、三上さんが推敲している座中の「手紙の下書きの一部」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。



①趣旨

お礼の手紙を書く場面において(読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えること/読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること)ができるかどうか

②関連の深い言語活動を扱う教材

中学校¹に同じ

3 全国学力・学習状況調査問題を踏まえた授業改善のポイント（提案）

（1）指導教材の主たる言語活動を適切に把握する

「言語能力を育成する中心的な役割を担う国語科においては、**言語活動を通して**資質・能力を育成する。」（小学校学習指導要領解説 P12、中学校学習指導要領解説 P12）とされていることから、国語科で培う資質・能力については、重点となる言語活動を適切におさえた授業づくりを行うことが大切です。

7年度の学力・学習状況調査において、学校の課題となっている問題については、その問題が重点とした言語活動を行うこととしている各学年の該当教材の単元・授業構成を、全国学力・学習状況調査問題を踏まえた構成としてみるとどうか。

（2）資質・能力に関する重点系統表を踏まえる

系統表には、学年の重点や学年間のつながりとなるキーワードが見えてきます。

系統表の重点を踏まえた授業づくりを行ってみましょう。
単元の指導目標のキーワードとなります。

（3）教科書をしっかり使いましょう※どの教科においても

（1）（2）のようなことについては、わかってはいるけど、十分吟味する時間がないということもあるかと思います。教科書は、学習指導要領の内容を遵守したつくりとなっているため、望ましい授業展開や重点的に扱う言語活動などが、しっかり設定されたつくりとなっています。ですから、教科書を使わない授業づくりを行っていくことは、せっかくあるものを使わずに1からの授業づくりとなってしまいます。

机上に教科書を開かせて授業を行いましょう。教科、内容によっては思考の妨げとなってしまうと思われがちですが、思考の助けとなるものです。他者参照と同じことです。どの教科においても、教科書を使って授業を行いましょう。

（4）教材と全国学力・学習状況調査問題の意識

全国学力・学習状況調査結果で良い結果を得るためにという視点ではなく、各教材・単元において獲得すべき資質・能力をしっかり獲得させるという視点に立ち、今年度出題された問題に係る言語活動に関連の深い教材を指導する際は、「この教材は、令和7年度の全国学力・学習状況調査問題と関連の深い教材です」と、この単元で獲得すべき資質・能力をしっかり身に付けさせるような意識づけを行いましょう。

全国学力・学習状況調査問題と関連の深い教材であることを意識させ、「何ができるようになる（単元・教材）か」について、児童・生徒と単元のはじめに共有しましょ。